

平成17年度

病害虫発生予察特殊報(第7号)

平成18年3月27日
神奈川県病害虫防除所長

病害虫名： チビクロバネキノコバエ
Bradysia agrestis

作物名： パンジー

1 発生経過

- 平成17年10月に県内で栽培されているパンジーで、葉縁が黄化し、下葉が枯死する株が発生した。
- 同月18日に農業技術センター普及指導部職員と防除所職員が現地を調査したところ、3.5号黒ポットで栽培されている株の5%程度に、生育不良や葉の食害が見られ、地面に接した葉や地際部を白色半透明の幼虫が食害しているのを確認した。さらに当所に株を持ち帰り検鏡したところ、根部に幼虫が寄生・食害しているのが確認された。なお、被害は9月中旬の定植後から確認されたとのことであった。
- 本幼虫および羽化した成虫を農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼をしたところ、神奈川県立生命の星・地球博物館の須島充昭氏により、チビクロバネキノコバエと同定された。
- チビクロバネキノコバエによるパンジーの被害は、本県で初めての確認である。

2 形態および生態

(1) 形態

ハエ目クロバネキノコバエ科の昆虫で、老熟幼虫の体長は4mm内外、全体白色半透明、頭部は黒色である。成虫は雄の体長が1.2～1.3mm、雌の体長が1.1～2.4mm、頭部が黒色、胸・腹部が暗褐色、翅が透明でかすかに褐色を帯びている。

(2) 生態

幼虫は多湿を好み、半腐熟化した有機物やたい肥、菌類などを餌としている。実験では幼虫はダイコンの根毛や新鮮な白菜、キャベツ、タンポポの葉も摂食し、ふ化幼虫が成虫の死骸を摂食することも観察されている。餌の質や量により変化はあるが、20～25℃のハウス内では月2回程度の発生は可能という報告がある。幼虫は地表面にクモの巣状の糸を張る。また、雌成虫は普通幼虫の食物となる腐植物の裏側に産卵する。

3 被害および寄主植物

(1) 被害

株の生育不良、葉の黄化、地際部に接した葉の食害、根の食害。

(2) 寄主範囲

寄主範囲はきわめて広く、パンジーの他、イチゴ、キュウリ、メロン、ウド、フキ、ナス、ヤマノイモ、サトイモ（エビイモ、貯蔵中に寄生）、コンニャク、ショウガ、食用ユリ、イースターカクタス、テッポウユリ、リンドウ、カーネーション、ベゴニア、トルコギキョウ、シュッコンカスミソウなど。

4 防除対策

(1) 培土や床土への有機物の多量施用を控え、たい肥を用いる場合は完熟のものを使用し、大きな塊ができないよう土と良く混合する。

(2) パンジーにはチビクロバネキノコバエに対して登録薬剤はない。



写真1 地上部被害



写真2 幼虫



写真3 根部被害と幼虫（円内が幼虫）



写真4 成虫

神奈川県病害虫防除所
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレフォンサービス 0463-58-6612
http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshou/top.asp